

統合データ分析による品質マネジメントシステムの効果性・有効性検証事例
The verification example of the effect nature and validity of quality management system by integrated data analysis.
後藤 徳彦 gotou@mxd.nes.nec.co.jp NECソフト株式会社 品質保証部
<p>発表要旨：</p> <p>NEC ソフト（以下、当社）では、QMS 基幹サーバ（PJ 管理 DB）で PJ 実績データ（現在 約 23,000 件）、これ以外にも CS 情報・経理情報・PJ レビュー情報などのデータあり、“PJ コード（各 PJ 一意に識別可能なコード体系）”で紐付けして管理している。これらデータ（統合データ）は、ISO9001（QMS）における品質目標・プロセス監視、顧客満足度分析など個々の業務や管理での利用に留まっていた。</p> <p>『統合データ分析』とは、上述の統合データを用いて、当社のめざす姿や経営課題に対して、総合的な観点（横串）で分析するという当社固有の分析手法である。</p> <p>今回の『統合データ分析』の目的は、「当社 QMS※は経営にどのような影響を及ぼしているのか？ 当社 QMS の強み/弱みは何か？ 今後の QMS 運営上、何を強化・徹底しなければならないのか？ などをあぶり出し、当社 QMS の有効性・効果性を検証し、現場へメッセージ発信する」ことである。具体的には、CS 向上・原価低減・品質/生産性向上（以下、QCD&CS）に影響する要因をあぶり出すものである。</p>
<p>キーワード：</p> ISO9001 品質マネジメントシステム データ分析 品質目標・プロセス監視 品質会計 CS 向上・原価低減・品質/生産性向上
<p>想定している聴衆</p> SQA、SEPG
<p>発表者の紹介（全角 100 文字）：</p> <p>入社後、基本ソフト・ミドルソフト開発業務を経て、2002 年より品質保証業務担当となる。以後、社内の ISO9001・CMMI 推進などに取り組む傍ら、プロセス改善などの社外コンサルも担当し、2011 年より『統合データ分析』に従事する。</p>

* 副題は不要であれば行ごと削除してください